

月刊

立川と語ろう 立川に生きよう

えくてびあん

3

〈EKUTEBIAN-VOL.5, MARCH, 1988-EKUTEBIAN〉

まいあーと・「今・市松人形」
by 笠原三枝子





森コーラスの10周年記念

10周年にトキめく



暖かく力強い指揮をされる中村一郎先生



結成から10年、「はじめて揃いの衣装を着てステージに立った時は、もう体が震えてしかたありませんでした」とは曙町一丁目の戸塚さん。私服を着ての音楽会から合唱祭へと歌声はひろがり、コーラスを力強くリードする中村先生。

そして今、舞台では喜歌劇「メリー・ウイドウ」をリズムカルに歌い、踊るひとりひとりがあでやかにステージにトキめいていた。



多摩教育センターに響く歌声にも重ねた年輪が...



まだ、夢中で歌っていた公民館での音楽会

まとめ役の戸塚さん、10年の思いこめ





「楽しい時間」といつてもさまざまに使い方があります。そんな中からひとつ、スケートで味わう人たちの「楽しい時間」をウオッチングしてみました。

野外スケートリンクとして都内随一である。レインボースケートリンク(昭和記念公園内)。はメイリンクの広さ二千四百平方メートルと大きなものである。

その中には、思い思いのフッシュンとスタイルで滑る人たちが賑わい、休日となると三千人もの人でリンクからあふれ出てしまふこともたびたびである。

なかでも、小・中学生には人気の場所でもあります。手ごろなうえにスケートボードやローラースケートで慣らしたバランスとタイム



「立川」と聞けば何はともあれ、これに尽きるのではなからうか。生産量日本一として立川の名は全国に通る一流ブランドなのである。

竹馬検定
「竹馬検定」が富士見児童館にて開かれた。ひと世代前のものと思いきや、これがなかなか静かなブームなのです。前村先生の手ほどきによりまずは手作り竹馬から、材料・竹、針金、100cm程の竹2本、20cm程の長さで厚さ1.5cm程の竹板

ングで乗れるからである。学校が終ると同時に飛んでくるといいう一の中津くんと細谷くん、スタイルもラジカセを聞きながらのスケーティングであります。国立から家族で来られた中条さん、初めて滑りに来まして、なかなかうまくいきませんが「楽しい時間」と思いながらもかわらぬ、アイスクリームを食うながらのフリースタイルであります。

滑っている間にも何度も北風が吹きぬけるそんな風をよそに、暖かそうに滑っていたのは晴町にお住いの渡辺さんであります。それもそのはず彼氏と一緒にスケーティングなのであります。(カップル多し)

初めての方面でも大丈夫であります。ここにはプロ級の指導員の平田さん(チーフ)井出さん油井さん中山さんといった方々が、手とり足



いたが、時とともに立川に多く拓かれた。先程開かれた品評会に於て選りすぐり78点が出品。内2点は「今年のウイド」は

静かな竹馬検定
「竹馬検定」が富士見児童館にて開かれた。ひと世代前のものと思いきや、これがなかなか静かなブームなのです。前村先生の手ほどきによりまずは手作り竹馬から、材料・竹、針金、100cm程の竹2本、20cm程の長さで厚さ1.5cm程の竹板

首都圏に広がるとみん銀行
暮らしにこそ便利にお役に立つよう努力しています。

と教えてくださるのであります。不思議なことにリンクの上で転んでもほとんどの人がこやかなのです。子供が転び大人が転び、それを見て笑っている人が転ぶといった具合で、なぜか楽しげなのであります。なかには「卒業を待つだけで皆との思い出になれば」と卒業前の八王子工業3年D組、勝山くん小川くん高野くん木田くん宮崎くん植松くん数馬くんの7人衆、



「楽しい時間」をそれぞれに皆さん楽しんでいらっしゃるようであります。

一つ気になるのは「立川うど」ではなく「東京うど」として出荷していることであろうか。

今年のウイドは
「立川市長賞」
「立川市長賞」

立川駅長列伝
漢字テスト②⑤
空欄に二字挿入を試みよう。
岡目
風満面

国鉄当局並びに各現業機関管理者の指導の申あつて、職員の大抵は意識を一八〇度転換、企業人としての自覚を持ち、新会社での新たなスタートを切った。これに反し、最後まで意識改革ができなかった職員は、残念ながら新会社に残留することは叶わなかった。三月三十一日付けで立川駅を去った職員は六名。

国鉄最後の日、志水駅長の胸中には、去り行く国鉄への郷愁より、明日から東日本旅客鉄道としていかに利用客の期待に応えて行くかという思いで一杯だった。

そこで、志水駅長は政策の骨子として、二つの眼目を柱とした。ひとつは、職員一人一人の資質の向上を目指す。意見発表の場を設けて職場の活性化を図る。もうひとつは、立川市民に親しまれる駅にすべく、市民の様々な行事に積極的に参加。市民との融和を図ろうというものである。

四月一日には東日本旅客鉄道誕生を記念し、日本コロムビアの新人歌手・渡辺裕子、和島香さんらを一日駅長として招待、駅コンコースで歌を披露した。

立川駅長列伝
「駅」の記念行事で、歌手の方に歌っていただいたというのは、うちが初めてではないでしょうか？」

表紙は語る
「時代布(20年30年たった昔の布地のこと)を買いつけに早朝……そうね、四時半くらいに

と、志水駅長は語る。最近、東京駅の連絡通路や、コンコースでコンサートが開かれていたが、立川駅の方が一歩先んじたわけである。

この他にも、諏訪まつりや、昭和記念公園で行われた「ふるさと東京まつり」にも出店するなど、国鉄時代には考えられなかった積極的なアピールを展開している。

一方、増収への努力も怠ってはいない。イベント用に改造した展望電車「パノラマエクスプレス・アルプス」を使つての団体旅行の募集や、成田山初詣列車、昨年の秋には日本初の映画列車を走らせている。

現在、志水駅長が頭を悩ませていることは、立川駅北口と南口を結ぶ自由通路の活用ということである。

第7回立川マラソン開催
3月13日(日)
会場/国営昭和記念公園内にて
種目:3キロ・5キロ
ハーフマラソン
本誌には(23)0003まで

真如苑だより
月日のたつのは早いものです。日めくりにもふと目をとめますと、もう桃の節句。家々には、思い出深い「雛」が飾られていることでしょうか……

御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。立川市民(成人)に限らせて頂きます。

また、立川駅が改良されてから既に五年が経過し、最近手洗いをはじめ、各所の汚れが目立ってきた為、駅全般的化粧直しを施し、リフレッシュする予定です。

「毎日、ご利用下さる皆様、お一人お一人が、ご自分の生活に密着した駅として、かわいがっていただければ、こんなに嬉しいことはありません」と、志水駅長は眼鏡の奥の目を細めた。丁度日本となり早一年が過ぎようとしている。

手焼せんどう
信濃屋
立川本店・(0425) 24-4708
立川高島屋地下キフトコーナー(0425) 25-2111 内線463
立川市富士見町2-12-9

工房から
今年、寒くなるぞ、と言われ続けている間に春を告げる黄砂が中国から飛来、いつもより20日も早い春一番が吹き渡りました。しかし、時折立川の街を吹きぬける北風は身をすすほどの寒さであります。●そんななか、多摩教育センターでは10周年という大輪の花を咲かせた「諏訪の森コーラス」。

80名からのファンで会場を満員にするほどの盛況ぶりでありました。さすがにママさんパワーであります。●編集部の留守番電話の音が一新されました。やはり、男のモツリとした声では、の影の聞こえにこたえて、今度はうら若き乙女の美声、そのうえ工房のオリジナル「えくてびあんソング」も聴こえるという念のいれよう。●もとめずも、心足らぬえくてびあん

「えくてびあん」は、昭和六十六年三月一日、発行所へえくてびあん編集工房東京都立川市柴崎町2-4-11(0425)25-2111内線463

発行所へえくてびあん編集工房東京都立川市柴崎町2-4-11(0425)25-2111内線463

月刊えくてびあん 第44号
昭和六十六年三月一日、発行
発行所へえくてびあん編集工房東京都立川市柴崎町2-4-11(0425)25-2111内線463
編集人 立井啓介
発行人 沖野嘉男
印刷所 株式会社立川印刷所

曙町3丁目のピカリ・直美さん



高松町1丁目の石塚巨純さん



高松町3丁目の高野あずみさん



高松町6丁目の榎本陽子さん



富士見町6丁目の上条美穂さん



幸町5丁目の徳沢真美さん



曙町3丁目の川原奈美子さん



富士見町6丁目の木村いづりさん



幸町4丁目の高橋彩乃さん



あのかわい
や

看板娘

立川 9

旧聞に属するが、二十歳の鮮度をお届けしよう。今年1月15日和・洋とりどりの晴着を身にまとい“大人”と呼ぶにふさわしいシッカリ娘たち。しかし、時おりみせる茶目つけこそは魅力なのであります、わが街の「秘蔵っ娘」たち。

富士見町4丁目の鈴木直美さん



富士見町6丁目の井上美幸子さん



幸町2丁目の須崎弘美さん

